

「利根運河らしい」 景観を守る取り組み

利根運河らしい景観は、豊かな自然や歴史・文化遺産など景観資源によって形成されています。それらの保全・活用が継続されることにより、自然と歴史と人の営みが調和した「利根運河らしい」景観が守られていきます。

景観計画

景観行政団体が景観に関するまちづくりを進める基本的な計画として、景観法に基づき景観形成上重要な公共施設の保全や、整備の方針、景観形成に関わる基準等をまとめる計画です。

屋外広告物条例

地方公共団体が良好な景観の形成、風致の維持、並びに公衆に対する危害の防止を目的に、屋外広告物法に基づき屋外広告物及び屋外広告業について必要な規制を行う条例です。

野田市

●江川地区において、条例により谷津の斜面林を保全しつつ、自然と共生する地域づくりのための取り組みを展開しています。

柏市

●景観計画において、利根運河・利根川を景観骨格のひとつに位置付けています。
●「柏市谷津保全指針」によって、利根運河に隣接する谷津田(大青田湿地)の保全を進めています。

流山市

●景観計画において、利根運河を「景観計画重点区域」に位置付け、区域の特性をふまえて設定した景観形成の方針などに沿って、良好な景観形成を図っています。

千葉県

●屋外広告物条例により、広告物(看板、貼り紙など)を規制しています。

もしも取り組みが行われなかったら



現在の良好な景観



適切な景観保全が行われない場合(イメージ)

景観を守る主なルール

各自治体の取り組み

わたしたちに できること...

利根運河では地域住民・学生・ボランティアのみなさまにより様々な保全・活用プログラムが実施されています。身近な資源を認識し活用することにより、ひとりひとりが「利根運河らしい」景観づくりの担い手としての役割を果たしています。



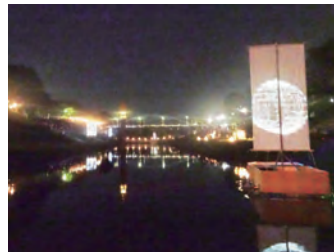
様々なウォーキングイベント



アレチウリの除去活動(利根運河協議会)



水辺を彩る鯉のぼり(利根運河交流館)



幻想的なシアターナイト(東京理科大学)

座談会を実施しました

2017年8月3日に東京理科大学理工学部の建築学科と土木工学科の学生9名と、利根運河の景観に関する座談会を実施しました。座談会でいただいたご意見をふまえて本パンフレットを作成しています。



【発行】
利根運河協議会
カナル君

【事務局】
国土交通省関東地方整備局 江戸川河川事務所 調査課
〒278-0005 千葉県野田市宮崎 134 TEL 04-7125-7317 (直通)

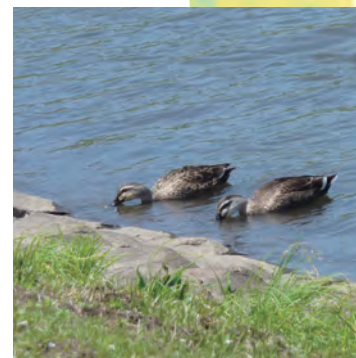


利根運河 の 景観

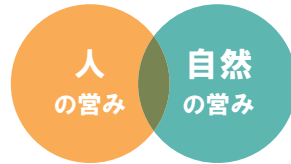
Human Activity

Nature

history



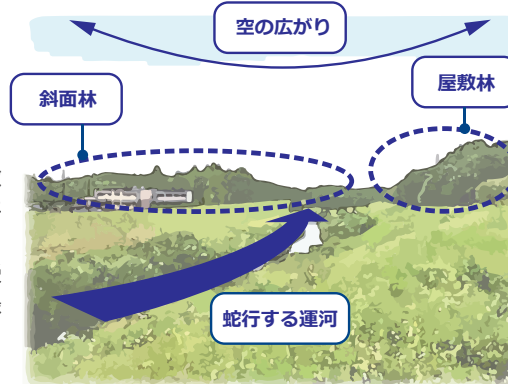
利根運河らしい 景観とは



利根運河は、緩やかな流れによる穏やかな水面と運河沿いに連続する緑（堤防の野草、屋敷林、斜面林など）によって、静かで落ち着いた地域空間の骨格となっています。周辺に広がる谷津や水田、屋敷林などのまとまりとボリュームある緑を基調として、人や自然の営みが繰り広げられることにより、奥行きと変化のある景観が連続しています。

蛇行する運河と豊かな緑のまとまり 中流上（ふれあい橋～大青田湿地）

蛇行する運河の形状と、谷津の斜面林や屋敷林などの緑のまとまりが、風景に奥行きを与えているほか、堤防天端から谷津を俯瞰すると、豊かな緑のまとまり（斜面林）が眺めを受け止めています。利根運河の中でもっとも緑のボリュームが多く自然度の高いゾーン。

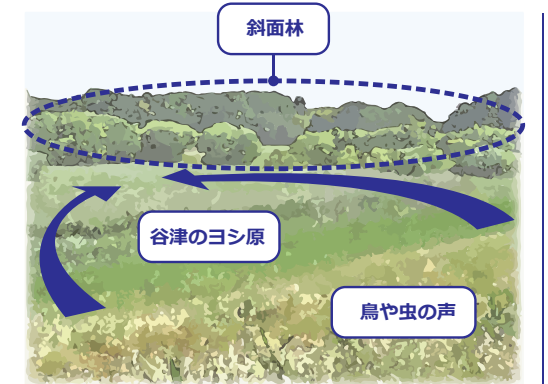


主な景観資源



谷津景観と季節・時間の移ろい 上流（大青田湿地～利根川）

堤防から眺め渡す水田が季節や時間の移ろいを映すほか、水門をはじめとした多くの構造物があり、河川的な顔を見せるゾーン。



主な景観資源



▲ 運河水辺公園



▲ 水田と斜面林



▲ 運河沿いに広がる谷津景観

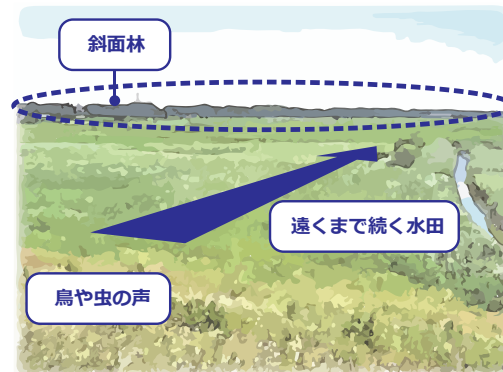


▲ 蛇行する運河



主な景観資源

遠くまで続く水田と、それを縁取る緑（斜面林、堤防植生）の連なりが、開放的な空間を形成し、野鳥や昆虫等の鳴き声が響くどかな田園景観。



遠くまで続く景色と開放的空間

下流（江戸川～西深井歩道橋）

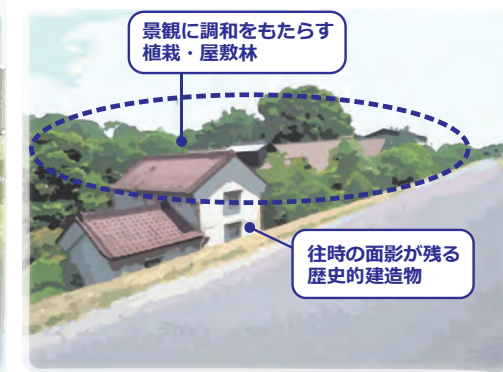
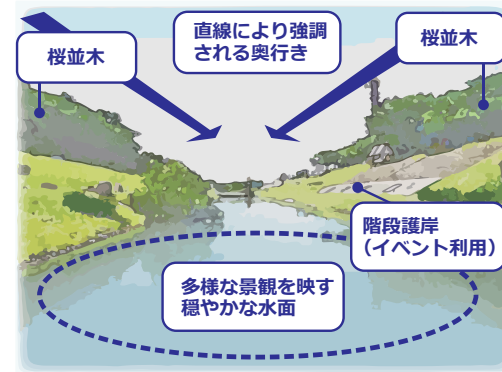


主な景観資源

運河を軸として、移ろいや営みが多様な景観を生み出し、穏やかな水面がそれらを魅力的に映している。自然・歴史・人の営みの3要素がバランスよく存在し、調和した景観が形成されています。

運河を中心としたにぎわいと歴史景観

中流下（西深井歩道橋～ふれあい橋）



利根運河の景観のなりたち



ローウェンホルスト・モデル

利根運河は、江戸川～利根川間を結ぶパイパスの水運ルートとして、明治23（1890）年に完成しました。オランダ人土木工師モデルの指導のもと、本来の地形を最大限に活用して開削され、今もなお、建設当初の運河の形状や自然が残されています。また、運河沿いには当時の様子や歴史を伝える蔵や運河大師などが点在しています。